



「輝く子どもとともに」

岩槻区 城北小学校 教諭 有働 紫
米沢谷 将

「先生 おはよう!」「先生、昨日ね…」
元気な子どもたちの声で教室に活気が生まれ、一日がスタートする。そんな毎日が楽しく、子どもたちの笑顔に励まされて8ヶ月が過ぎた。

城北小学校に着任した4月は、初任者研修と担任としての仕事を両立できるのだろうかとか、新しい学校での自分の動きがつかめずにいたことなど心配は多かった。しかし、1年間クラスを担当することや、臨時的にではなく何年か学校で過ごすこと。そして、長い時間子どもたちの側にいられることに憧れていたの、喜びと感謝の気持ちも大きかった。

喜び勇んでスタートしたものの、要領が悪く何をすることも時間がかかる私は、先輩の先生方のように早く仕事を処理することができない。そんな毎日の中で何もしてあげられないことを嘆くよりも思い付いたことをなんでもしていこうと思うようになってきた。朝早く行って子どもたちと話すこと、読書の時間に本を読んであげること、一緒にたくさん歌を歌うこと、理解の足りない学習を手伝うこと。できることは少ないかもしれないが、いつも「子どもたちと仲よく、いいクラスをつくっていきたい」ということを心に置いてがんばっていきたいと思う。

日々忙しく過ごしているが、大好きな3年2組38人の子どもたちに毎日会えて成長を見守れることがとても幸せだ。子どもたち一人一人が自分らしく輝くようはぐくんでいける教師としての自分づくりを図っていきたい。
(うどう ゆかり)

4月8日始業式、初めての子どもたちとの出会いである。どんな子どもたちに出会えるのだろうと、期待と不安を胸に教室に向かった。ドアを開けると、5年2組の教室は明るく元気な38人の子どもたちの活力にあふれていた。「みんなのよいところを見つけ、認め合い、お互いに高め合おう」と話をした。

あれからあっという間に半年以上が過ぎた。毎日の出来事が初めて体験することばかり。子どもたちが楽しいと言ってくれるような授業ができるようになりたい。どうすれば興味・関心をもってもらえるだろうか。多くの課題があることは分かっているが、なかなかうまくできない。一日一日が新鮮であるが、反省の連続である。

しかし、教師になったからこそ味わうことのできた感動もあった。水泳の時間に、泳げない子どもが「先生、浮けるようになったよ」と嬉しそうに笑った時、算数の時間に、「なるほど。そういう意味だったのか」と分かった喜びの表情をした時、一日の中のほんの一瞬の出来事ではあるが、子どもの輝きが教師にとってこの上ない喜びとなることを実感した。実践の改善点も多いが、心の温まる感動があるのも全て子どもたちとのかかわりの中で生まれているものだと感じている。

子どもたちの輝きをもっと大きなものにするためには、子どもたちをよく見つめ、一人一人の願いを大切にすることが必要だ。初心を忘れずに、子どもたちとともに成長できる教師を目指して、自己研鑽に努めていきたい。
(よねざわや たもつ)